

## シンポジウム「多文化共生——文化人類学の視点から」の開催について

1. 主催 日本学術会議 地域研究委員会人類学分科会  
法政大学経済学部学会  
国立民族学博物館
2. 日時 平成20年 2月23日(土) 13:30 ~ 17:30
3. 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎S306 (千代田区富士見2-17-1)
4. 次第

### 開催趣旨

グローバル化の時代と言われている。海外で暮らす日本人が増加するとともに、国内で暮らす外国人は急激に増加している。日本の多文化性は、単一民族国家という幻想のもと従来目に触れにくいものだったが、近年それが顕在化しつつあり、多文化共生は日本社会の今後の課題として重要なものとなってきている。このシンポジウムでは、「文化」に正面から取り組んで研究を行ってきた文化人類学が多文化共生という課題に取り組んだ成果を公開する。

開会あいさつ：油井 大三郎（東京女子大学現代文化学部教授、日本学術会議会員）

### I 講演（13:35 ~15:30）

- 1) 竹沢 泰子（京都大学人文科学研究所教授、日本学術会議連携会員）  
「多文化共生の歩みと課題」
- 2) 庄司 博史（国立民族学博物館教授）「多言語化する社会」
- 3) 岡田 浩樹（神戸大学大学院国際文化研究科教授）「多文化共生」というアリーナ（闘技場）と地域社会-神戸における人類学的アクションリサーチの実践を通して-
- 4) 陳 天璽（国立民族学博物館准教授）「日本における中華学校の現在」

司会進行：山本 眞鳥（法政大学経済学部教授、日本学術会議会員）

### II 討論など（15:45 ~17:30）

#### コメンテータ

- 森 廣正（法政大学経済学部教授）  
アンジェロ・イシ（武蔵大学社会学部准教授）  
森茂岳雄（中央大学文学部教授）

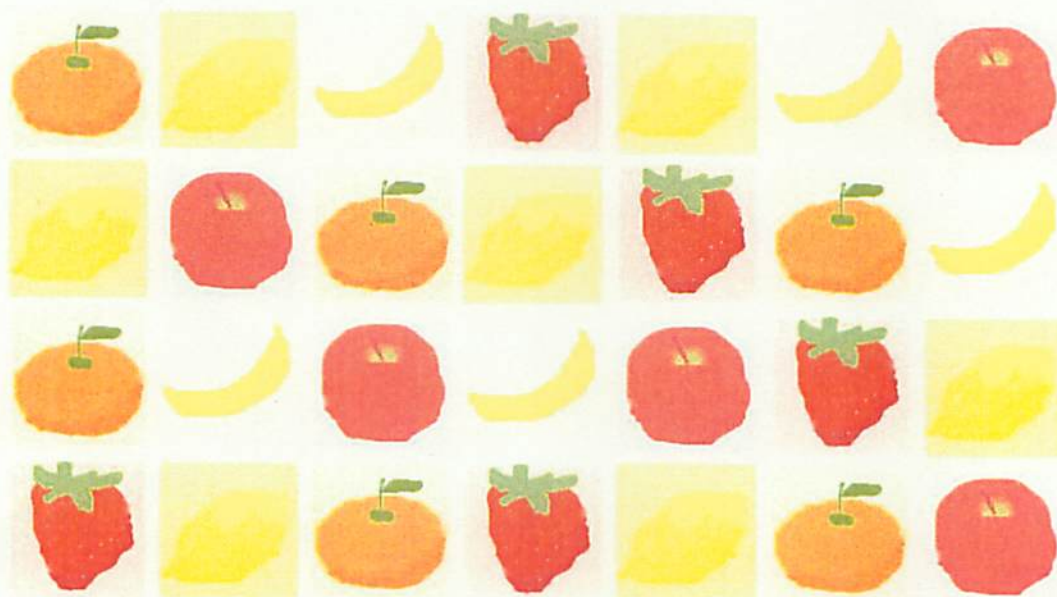
閉会あいさつ：山本 眞鳥（法政大学経済学部教授、日本学術会議会員）

参加申込方法：必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、anthro-scj@nifmail.jp、または042-783-2611法政大学経済資料室山本宛、お申し込みください。

\* 定員（200名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

公開シンポジウム

# 多文化共生 文化人類学の視点から



グローバル化の時代と言われている。海外に暮らす日本人が増加するとともに、国内に暮らす外国人も急激に増加した。多文化共生は日本社会の今後の課題として重要なものとなってきている。従来目に触れにくかった日本の多文化性と多文化共生について文化人類学の立場から考察する。

日時: 2008年2月23日(土) 13:30~17:30

場所: 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎 S306(千代田区富士見 2-17-1)(JR 中央線の南側沿い外濠公園沿いの道の大学正門より約 30m 程度飯田橋よりに校舎入り口があります)

開会あいさつ: 油井 大三郎(東京女子大学現代文化学部教授、日本学術会議会員)

講演者: 竹沢 泰子(京都大学人文科学研究所教授、日本学術会議連携会員)「多文化共生の歩みと課題」

庄司 博史(国立民族学博物館教授)「多言語化する社会」

岡田 浩樹(神戸大学大学院国際文化研究科教授)「多文化共生」というアリーナ(闘技場)と地域社会—神戸における人類学的アクションリサーチの実践を通して—

陳 天璽(国立民族学博物館准教授)「日本における中華学校の現在」

コメンテータ:

森 廣正(法政大学経済学部教授)

アンジェロ・イシ(武蔵大学社会学部准教授)

森茂 岳雄(中央大学文学部教授)

司会進行、閉会あいさつ: 山本 真鳥(法政大学経済学部教授、日本学術会議会員)

参加申込方法: どなたでも参加できますが、申込をお願いします。必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、anthro-scj@nifmail.jp または042-783-2611 法政大学経済資料室山本宛、ファックスでご連絡ください。

\* 定員(200名)となり次第、締め切りとさせていただきます。

主催: 日本学術会議 地域研究委員会人類学分科会  
法政大学経済学部学会  
人間文化研究機構国立民族学博物館